

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅲ-4-4  
文化財の保存・継承と活用

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

文化財課長 萩 雅人

電話番号

0852-22-6468

|         |   |   |  |
|---------|---|---|--|
| 事務事業の名称 | 古代出雲歴史博物館管理運営事業   |   |  |
| 目的      | (1) 対象  | 古代出雲歴史博物館の利用者及び県内外の人々   |  |
|         | (2) 意図  | 島根の歴史文化に関する研究成果の発信、学習・交流機会の提供により、県内外の方々に島根の歴史文化の魅力を生かし、理解してもらう。 |  |
| 事業概要    | 島根の歴史文化に関する研究成果の情報発信、学習・交流機会の提供により、県内外の方々に島根の歴史文化の魅力を理解してもらうため、以下のような業務を実施。<br>・学芸業務：県内外の方々に、島根の歴史文化を知ってもらうため、県内の出土品や歴史資料の展示公開及び情報発信を実施する。<br>・交流普及業務：県内外の方々に、島根の歴史・文化を理解してもらい知ってもらうため、各種講座やイベントなど交流・普及事業を実施する。<br>・広報・管理業務（指定管理）：県内外の方々に、郷土の歴史・文化を発信する重要な拠点施設になることを目的に、指定管理者に委託して、効果的な広報及び適切な維持・管理を実施する。 |   |  |

## 2. 成果参考指標

| 成果参考指標名等 |           | 年度    | 27年度      | 28年度      | 29年度      | 30年度      | 31年度      | 単位 |
|----------|-----------|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----|
| 1        | 指標名 入館者数  | 目標値   |           | 220,000.0 | 220,000.0 | 200,000.0 | 200,000.0 | 人  |
|          |           | 取組目標値 |           |           |           |           |           |    |
|          | 式・定義 入館者数 | 実績値   | 255,937.0 | 242,734.0 | 265,071.0 |           |           |    |
|          |           | 達成率   | -         | 110.4     | 120.5     | -         | -         | %  |
| 2        | 指標名       | 目標値   |           |           |           |           |           |    |
|          |           | 取組目標値 |           |           |           |           |           |    |
|          | 式・定義      | 実績値   |           |           |           |           |           |    |
|          |           | 達成率   | -         | -         | -         | -         | -         | %  |

## 3. 事業費

|              | 前年度実績   | 今年度計画   |
|--------------|---------|---------|
| 事業費 (b) (千円) | 356,039 | 367,934 |
| うち一般財源 (千円)  | 279,712 | 286,169 |

## 4. 改善策の実施状況

|                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| 前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況 | ②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む） |
|---------------------|------------------------|

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- ・出雲大社「平成の大遷宮」の効果が薄れたこともあり、平成27年度以降の入館者数は25万人前後で推移している。入館者のうち県内20%、県外80%。初めての来館者が76%。「何度も来たい」、「もう一度来たい」とした者が80%。（利用者満足度調査アンケートによる）
- ・学芸業務の成果として企画展、特別展及び常設展期間限定展示を5回（年度未開始の1回を含む）実施した。
- ・普及交流事業として博学連携プログラムを実施しており、昨年度は学校団体で101校、約5700名の来館利用があった。
- ・利用者満足度調査アンケートで、観覧後の感想を「大変良かった」、「良かった」とした者が約97%と非常に高かった。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・マスコミや地元関係者（商店街や旅館など）に向けた展覧会の内覧会を実施し、地域向けの情報発信を引き続き強化した。
- ・世界遺産登録10周年を迎えた石見銀山に関して、特別展「石見銀山展～銀が世界を変えた～」を石見銀山資料館と共同で開催した。
- ・出雲大社と歴史を組み合わせたツアーを引き続き実施し、6,132名の参加があった。
- ・「神門通りおもてなしステーション」と連携し、地元商店街との相互誘客を図った。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

### ①困っている「状況」

- ・出雲大社大遷宮後、入館者が減少傾向にある。
- ・展示、保存する文化財を適切に管理するための環境が十分でない。
- ・入館者から、展示の説明文字が小さい、説明地図が見えにくい、外国語表記がほしいなど、様々な要望が寄せられている。
- ・最新の情報に基づく展示が十分にできていない。

### ②困っている状況が発生している「原因」

- ・出雲大社を訪れる観光客の取り込みができていない。
- ・県内からの入館者数の割合が低く、若年層の来館も少ない。
- ・開館から11年を経過し、施設運営上老朽化等による課題が顕在化している。
- ・寄託、寄贈資料が増加し、収蔵スペースの不足が生じている。
- ・多様な入館者からの要望への対応や、最新の情報などに基づいた展示を実現するためには、大規模な修繕とそれに要する時間が必要である。

### ③原因を解消するための「課題」

- ・出雲大社と歴史をセットにしたPRの強化
- ・インターネット（SNS）、ホームページの活用強化
- ・地域の関係者との連携強化
- ・外国人観光客誘客策の強化
- ・リピーター獲得等のため展示内容の充実強化と最新の研究成果の反映
- ・楽しんで学べる展示や展示以外の館の魅力の創出
- ・施設の特長性を捉えた、計画的なメンテナンスの実施

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・指定管理者により県外へのセールス活動の強化、海外からの誘客に向けたPRの強化や受け入れ態勢の充実を図る。
- ・地元関係者やマスコミなど地域との連携を引き続き強化し、地域に向けたPRを行う。
- ・常設展に加えて、企画展、特別展等の内容を魅力的かつ充実させ、施設の適切な管理運営を行う。
- ・専門知識を有した人材の確保など、長期的視点に立った運営に努める。
- ・2020年1月から3月に県外で特別展「出雲と大和」を開催するため、展示、保存管理する文化財が館内に少なくなり、文化財への影響を最小化できるこの時期を捉えてメンテナンスを実施する。